

令和6年度全建賞 推薦調書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	あらかわほうすいろつうすいひやくしゅうねんきねんじぎょう
1. 事業(施策)の名称	荒川放水路通水 100 周年記念事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和4年1月16日 ~ 令和7年3月31日
3. 事業費(工事費)	50 百万円
4. キーワード	荒川、荒川放水路、旧岩淵水門、周年事業、地域連携
5. 事業概要	荒川放水路は、洪水から大都市・東京を守るために、新たに人の手で作った人工の河川である。1924(大正13)年10月12日に執り行われた通水式から100年を迎えることを契機に、これまで荒川に関わってきた全ての方々への感謝の意を表すとともに、これからも安心して暮らしていける強靱で持続可能な地域としてより良い形で将来に引き継いでいくことを目指して、「荒川放水路通水100周年記念事業」を実施した。

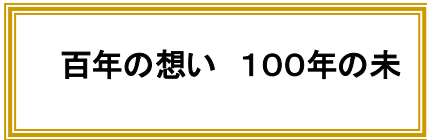
6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面に秀でた事業	② ソフト面に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	() ()	(○)情報発信 (○)地域連携
アピールする 2)「秀でた成果」	() ()	(○)旧岩淵水門の重要文化財指定 ()

7. 特にアピールしたい点
<p>① 情報発信(SNS、広報誌、マスコミ活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1000 日前から広報を開始(荒川放水路への理解や認知度向上等、事業を広く浸透させる)。 ・ 若年層や女性をターゲットにした広報展開により、幅広い世代にアピールすることが出来た。 ・ マスコミを活用。多くの媒体で記事や特集として取り上げられた。 <p>② 地域連携(自治体・市民団体・博物館等との連携した広報活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沿川自治体等と連携。区報や花火大会等イベントで紹介してもらう等、コストを抑えつつも高い集客性や広報効果を発揮した。 ・ 市民団体等 13 団体で構成される「荒川放水路通水 100 周年市民実行委員会」と連携することで、市民団体との協力関係を強化。 ・ 博物館等において、特別展や現場見学会、出前講座を連携して開催し、地域一体となった広報展開を行った。 <p>③ 旧岩淵水門の重要文化財指定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年(2024年)8月15日付けで重要文化財に指定されたことで、高い注目を集めて相乗効果を発揮した。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



【記念ロゴマーク】



【キャッチコピー】



【荒川放水路通水 100 周年アニバーサリーフェス(記念撮影)】

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【事業概要】

かつての荒川は、その名のとおり「荒ぶる川」として、江戸時代から明治時代にかけて沿川で洪水被害が頻発しており、特に大きな被害をもたらした1910年(明治43年)の洪水を契機に、洪水対応能力を向上させるため、明治政府が新たな放水路、現在の荒川を建設することとし、東京都北区岩淵の下流から中川の河口方面に向けて、延長約22km、幅約500mの放水路を開削して、1924年(大正13年)に通水し、1930年(昭和5年)に荒川放水路として完成した。

荒川放水路は、通水から100年間、これまで一度も堤防が決壊することなく水害から人々の命と暮らしを守り、大都市に残る貴重なオープンスペースとして、多くの人々の憩いと安らぎの場として、動植物の生息・生育・繁殖の場として、地域の発展を支えてきた。通水から100周年を迎えることを機に、これまで荒川に関わってきた全ての方々への感謝の意を表すとともに、これからも安心して暮らしていける強靱で持続可能な地域としてより良い形で将来に引き継いでいくことを願って、荒川下流部の沿川2市7区の首長、東京都、埼玉県をはじめ、市民団体等と連携した100周年記念事業・広報イベントを実施した。



【荒川放水路の整備】

① 情報発信

- ・ 本事業の取組や荒川放水路への理解や認知度向上等、浸透させるには、通水100周年にあたる2024年(令和6年)10月12日の1000日前にあたる2022年(令和4年)1月16日より取組を開始した。

<主要な取り組みイベント>

2022年(令和4年)1月16日(1000日前イベント)

通水カウントダウンボード開設、岩淵水門見学会、水門ライトアップ

2022年(令和4年)8月27日 1日事務所長体験会(777日前イベント)

2022年(令和4年)10月29日 岩淵水門40周年記念イベント

2023年(令和5年)2月18日 市民講座(みんなで取り組む流域治水)

2023年(令和5年)8月30日 「全日本中学生水の作文コンクール」
受賞者イベント(1日事務所長体験会)

2023年(令和5年)10月11日 宮村忠文庫 開設

100周年まであと1年企画展

2024年(令和6年)7月7日 カウントダウンフェス(100日前イベント)

2024年(令和6年)10月12日 アニバーサリーフェス

荒川放水路サミット



【荒川放水路サミット】

【アニバーサリーフェス】

- WEB サイト上に特集コンテンツを設けたほか、若年層をターゲットに SNS(荒川下流河川事務所公式 X(旧ツイッター)、YouTube)を活用した広報を展開。
- 『るるぶ特別編集 荒川放水路』を制作。20代~40代の女性(荒川のことをよく知らない)層に手を取って読んでもらえることを意識し、荒川放水路の歴史や流域治水の取組などを紹介するとともに、事務所の若手職員を中心とした編集部『ひやくねんず』を立ち上げ、沿川スポットやグルメ情報(お店の選定を含む)を自らの足でロケを行うなどして、若者視点での制作を行った。
- イベント開催等を記者発表し、マスコミ取材を活用した広報を展開。多くのメディアで記事や特集として取り上げられた。



【若年向け広報】



【るるぶ荒川放水路】

※るるぶ荒川放水路の全文は
荒川知水資料館 amoa
ホームページに掲載



<アニバーサリーフェス開催時の主要メディアによる報道事例>

NHK サタデーウォッチ9: 10月12日、NHK 全国ネットで約5分30秒放送

NHK 首都圏 NEWS: 10月16日、約9分放送

NHK 首都圏 NEWS: 10月12日、約2分放送

その他、朝日新聞、産経新聞電子版ほか多数のメディアにおいて荒川放水路 100周年に関連した記事が掲載

② 地域連携(自治体・市民団体・博物館等との連携した広報活動)

- 令和5年5月25日に荒川下流部沿川2市7区(戸田市、川口市、板橋区、北区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区)及び埼玉県、東京都、荒川下流河川事務所で構成された「荒川放水路通水 100周年記念事業実行委員会」を結成し、ロゴマークの作成や「荒川放水路通水 100周年行動宣言」を公表するなど連携しながら事業にあたった。
- 自治体が主催するイベントや区報等において、「荒川放水路通水 100周年記念」の冠とロゴマークを付けてもらうとともに、イベントチラシや区報に荒川の歴史について紹介文を掲載するなど沿川自治体の協力や通水 100周年のデザインマンホールを設置するなど、100周年事業の認知度を向上させた。
- 民間においても、市民団体等 13 団体で構成される「荒川放水路通水 100周年市民実行委員会」が結成され、行政として広報やイベント活動について協力や連携できるものは協力体制で支援した。
- 北区飛鳥山博物館、江東区中川船番所資料館、埼玉県立 川の博物館において、荒川放水路通水 100周年の特別展や現場見学会、出前講座が開催された。また、沿川自治体、図書館、生涯学習センターの広報ブースにおいてパネルリレー展が開催されるなど、地域一体となった広報活動を行った。

<自治体との連携効果>

- 江戸川区報 発行部数 約 19 万部 (新聞折り込み)
- 北区報 発行部数 約 19 万部 (全戸配布)
- 足立区報 発行部数 36 万 2400 部 (全戸配布)
- 荒川放水路通水 100周年記念 戸田橋花火大会 Sky Fantasia 観覧者数 45 万人
- 荒川放水路通水 100周年記念 第 65 回いたばし花火大会 観覧者数 57 万人
- 北区花火会 2024 RED×BLUE SPARKLE GATE 来場者数 4 万 3000 人
- 第 3 回 川口市花火大会 来場者数 7 万 8000 人

荒川放水路通水100周年行動宣言(抜粋)
(全体)

1. 「流域治水」の取組に挑戦
(防災・減災・強靱化)
2. 計画的・着実な治水施設の整備、老朽化対策を継続、避難計画、高台まちづくりに挑戦
(水辺空間・自然環境)
3. 魅力ある水辺整備、良好な自然環境の創出、水辺拠点づくり、拠点間ネットワークづくりに挑戦
(危機管理)
4. 関係機関による災害時連携協働体制の強化、円滑な防災・避難行動等の実現に向けた取組に挑戦
(地域間交流)
5. 水の繋がりを通じた相互理解・相互応援の関係づくり、流域が一体となった地域づくりに挑戦

※荒川放水路通水100周年行動宣言
の全文は荒川知水資料館 amoa
ホームページに掲載



【100周年特集号の区報
(江戸川/足立区)】



【100周年記念
マンホール(北



【100周年とコラボした花火大会(板橋区/戸田市/北区)】

<市民団体主催の主要な取り組みイベント>

- 2024年(令和6年)3月23日 赤羽ピクニックフェスタ(北区観光協会主催)
- 2024年(令和6年)5月7日～9日 100年後の安心のための TOKYO 強靱化世界会議
(100年後の安心のための TOKYO 強靱化世界会議実行委員会主催)
- 2024年(令和6年)7月20日～21日 荒川河川敷 避難体験キャンプ(市民防災まちづくり塾実行委員会主催)
- 2024年(令和6年)8月20日 荒川の水を知るバスツアー(NPO 法人あらかわ学会主催)
- 2024年(令和6年)9月14日 荒川 遠泳大会 2024 (NPO 法人あらかわ学会主催)
- 2024年(令和6年)10月12日 シンポジウム『旧岩淵水門の重要文化財について』考える(市民実行委員会主催)
- 2024年(令和6年)11月3日 ARV100(音楽イベント)(NPO 法人トッピングイースト主催)



【赤羽ピクニックフェスタ】



【100年後の安心のための
TOKYO 強靱化世界会議】



【ARV100(音楽イベント)】

<博物館等主催の通水 100 周年記念の特別展>

- 2024年(令和6年)7月23日～9月1日
岩淵水門と荒川放水路 (北区飛鳥山博物館)
- 2024年(令和6年)9月21日～12月1日
東京をまもった人工水路と生きものたち
(埼玉県立川の博物館)
- 2024年(令和6年)9月19日～1月19日
荒川と江東 (江東区中川船番所資料館)



③ 旧岩淵水門の重要文化財指定

- ・旧岩淵水門(通称「赤水門」)は、1924(大正 13)年に荒川の増水時に隅田川に流下する流量を調節する「要」の施設として建造されたもので、1982(昭和 57)年に完成した岩淵水門(通称「青水門」)にその使命を引き継ぐまで約 60 年にわたり洪水を防ぎ、首都の発展等に寄与した施設。荒川放水路の通水時に建造された水門・閘門の中で現存する唯一の施設であり、大正期における河川構造物の技術的達成度を示すものとして重要な施設となっており、2024(令和6)年8月15日付けで重要文化財に指定された。
- ・関係者との調整を経て、通水 100 周年の記念すべき年に重要文化財に指定されたことから、高い注目が集まり、放水路の歴史と併せてマスコミ等に大きく取り上げられる結果となり、相乗効果を発揮した。
- ・荒川放水路の歴史、建設に携わった技術者などを展示・紹介する荒川知水資料館 amoa においては、旧岩淵水門の重要文化財指定を受けて来館者が増加。

<荒川知水資料館 amoa の来館者数>

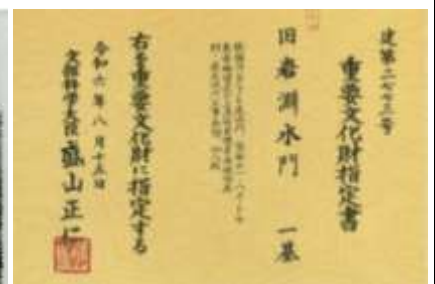
2023年(令和5年)12月～2024年(令和6年)11月まで 55,790人(対前年比 約 1.3倍)



【旧岩淵水門(赤水門)】



【旧岩淵水門(建設当時)】



【重要文化財指定書】